



▲「薬院河野クリニック/メディカルサポート薬院」完成予想パース

だけでは、復職には近づけない。そこで自宅と職場をつなぐ、助走期間を過ごす場所として利用してもらおうというものだ。利用者は仕事に向かう時と同じ時間に起き、スーツを着て、家を出る。そしてオフィス街にある同クリニックに来る。クリニック内ではごろごろしてもいいし、オフィスを模した部屋でパソコンをいじってみてもいい。まずは自宅を出て、生活リズムを整えることが大切」と生野院長は力を込める。

クリニックに併設するメディカルサポート薬院は、いわば「よるす相談所」。医師が身体・心の健康相談やセカンドオピニオンなど、患者が不安に思っていることを聞いていく。「これまでも個人的な形では相談に応じてきた。その中で、診療ではないもっと気軽な形で医師に相談したいと思っている人が多いこと、そしてそのような場所がないということや、常々感じていた」（河野理事長）ことから、じっくりと時間をかけて、話を聞くのが特徴だ。保険が適用されるものではないため、料金は1時間当たり1万円程度を見込んでいる。将来的には企業と契約し、従業員の相談に応じるサービス（EAP）も検討するという。「本来であれば病気になる前に、精神科とそれぞれ専門の医師がいるので、」

は、いわば「よるす相談所」。医師が身体・心の健康相談やセカンドオピニオンなど、患者が不安に思っていることを聞いていく。「これまでも個人的な形では相談に応じてきた。その中で、診療ではないもっと気軽な形で医師に相談したいと思っている人が多いこと、そしてそのような場所がないということや、常々感じていた」（河野理事長）ことから、じっくりと時間をかけて、話を聞くのが特徴だ。保険が適用されるものではないため、料金は1時間当たり1万円程度を見込んでいる。将来的には企業と契約し、従業員の相談に応じるサービス（EAP）も検討するという。「本来であれば病気になる前に、精神科とそれぞれ専門の医師がいるので、」

し疲れた、「不安がある」といった段階で訪れても防いだり、重症化を食い止めたい」と考える。「にじいろプロジェクト」では、今後精神疾患や、それに伴った合併症を持った高齢者の施設を

構想している。河野理事長は「メディカルサポートのように、予防の段階から、老人施設のように、看取れる」ところまでトータルに関わっていきける医療機関を目指していきたい」と、青写真を描いている。

ふくおか経済 '09 10月号
メンタルヘルス特集に記事が掲載されました。

復職デイケア併設のクリニックを開院予定 相談専門施設も 済世会

では次にメンタルヘルスケアに関わる医療機関はどうか。河野病院（糟屋郡篠栗町尾仲）など3つの精神科専門病院を運営する医療法人済世会（同、河野正美理事長）。同会は来年1月、福岡市中央区薬院4丁目1に「薬院河野クリニック/メディカルサ

ポート薬院」（生野信弘院長）をオープンする。「精神科は随分敷居が低くなってきているが、病院にはまだまだ気軽に来にくいようだ。もっと気軽に相談にきてもらえる場所をつくりたい」（河野理事長と、入院施設を持たないクリニックの開設を決めた。

場所も通院しやすさを考え、これまでの病院とは異なり、都心部を選んだ。同会は4年前から心を病んだ患者の社会復帰を支援する「にじいろプロジェクト」を開始している。その一環として薬院河野クリニックには復職専門デイケア（リワークゼミナール）を併設する予定だ。

例えば、うつ病は病状が回復しても、すぐに従来の業務に復職し、全力疾走することは難しい。しかし自宅で休養をとる



▲（左から）生野信弘（医）済世会薬院河野クリニック/メディカルサポート薬院院長、河野正美（医）済世会理事長